

# 店舗の売上金の一部を保養企画で活用

## 福島県南生協、白河市で保養プロジェクト実施



食事を楽しむ参加者。

福島県南生協は、1月29日、福島県白河市内の仮設住宅住民を対象にした保養企画を、白河市の「きつねうち温泉」で行ないました。同生協では、震災翌月の2011年4月から、毎月11日の店舗売り上げ金の1%を、子どもの健康被害の不安を抱えながら暮らす保護者の支援を

目的とする保養企画への資金としており、この度の企画は、その資金を使用して行なわれました。

会場となった「きつねうち温泉」は、本来は閉館日でしたが、同施設を運営している白河市の協力のもと、開館していただきました。企画は、組合員理事によって組み立てられ、43人の参加者は、温泉や食事、カラオケなどを満喫。仮設住宅の住民同士、交流する機会は少なく、今回の企画は「互いに交流が持てる」として大変喜ばれました。

参加者からは、「ひとときでもつらいことを忘れて楽しい時間を過ごせた」との感想が多い一方、「頭の中ではい

つも不安との戦いです。先の見えない人生をどう生きればいいのか？」といった意見も多く聞かれました。

福島県南生協は、不安を抱えている人に寄り添った支援活動を行なっていくため、参加者アンケートを参考に、今後も募金で運営資金を集めながら、保養プロジェクトを行なっていくたいとしています。



カラオケを満喫。

# 福島県民に寄り添い、茨城県でできることを見つけたい

## 茨城県生協連、福島県を訪問



飯館村を視察する参加者。

茨城県生協連は、1月31日と2月1日に福島県を訪問しました。福島県の生活実態を知った上で、これからの支援のあり方を考えるためです。企画には、茨城県生協連、いばらきコープ、パルシステム茨城、茨城県学校生協から役職員計15人が参加。飯館村、南相馬市小高地区周辺の視察や、放射線量測定、学習

会、交流会を行ないました。

1日目の午後は、福島市で、福島県生協連、コープふくしま、パルシステム福島、福島中央市民医療生協、新潟県生協連の組合員理事ら15人と報告交流会を開催。この交流会の中で、いばらきコープより組合員募金100万円、パルシステム茨城より募金30万円が福島県生協連に贈られました。

企画終了後には、「福島県の生協は、除染、放射線量測定、保養企画など、本当にさまざまな取り組みをやっており、福島県民に寄り添って事業を展開している姿に感動しました」との感想が聞かれました。

茨城県生協連専務理事の古山 均

さんは、「茨城県は福島に隣接しているので、子ども保養企画のより一層の充実を目指したい」と話します。また、福島県の子どもたちと親の思いを、茨城県民に知らせていくための企画なども考えていきたいとのこと。



組合員から寄せられた「東日本大震災復興支援募金」を、福島県生協連の熊谷純一会長（前列左）へ贈呈。